

知財部門 AI 活用：3つのアプローチ徹底比較

Manus (AI エージェント) × Claude Code (コーディング特化 AI) × 知財特化型 AI ツール

2026年4月12日作成

Claude Opus 4.6

エグゼクティブサマリー

知財部門の業務効率化・高度化において、**最も即効性が高いのは知財特化型 AI ツール、最も拡張性が高いのは Claude Code によるカスタム開発、そして Manus は汎用的な調査・資料作成には有用だが知財コア業務への適用は限定的**である。2025年は日本の知財 AI 活用「元年」と呼ばれ、国産ツール (Patentfield AIR、AI Samurai、Genzo AI など) の急速な進化、特許庁の AI アクションプラン推進^[1]、そして NEC の先行事例 (先行技術調査時間 93.5%削減)^[2]が業界に衝撃を与えた。各アプローチは排他的ではなく、部門の規模・目的・技術力に応じた最適な組み合わせが存在する。

1. Manus一万能型だが知財の精密作業には不向き

1.1 概要と特徴

Manus（2025年3月リリース、同年12月にMetaが推定20～30億ドルで買収^[3]）は、自律的にウェブ閲覧・コード実行・ファイル生成を行う汎用AIエージェントである^[4]。プランナー・実行・検証の三層マルチエージェント構成により、ユーザーが高レベルな指示を出すだけで複数ステップのタスクを自律完遍する^[5]。Wide Research機能では数百のデータポイントを並列処理でき、技術動向の広範な調査には威力を発揮する。

1.2 知財業務への適用可能性と限界

知財業務への適用可能性は、主に「調査・資料作成」の周辺業務に集中する。日本の知財コンサルタント・野崎篤志氏（e-Patent）がManusでJ-PlatPat検索を実証しており、特許検索結果のExcelリスト作成には成功している^[6]。しかし、ペイウォール付きサイトの約70%にアクセスできない制約は深刻で^[7]、Derwent、Orbit、PatSeerなどの専門特許データベースとの直接連携は不可能である。

1.3 セキュリティ上の懸念

セキュリティ面では重大な懸念が残る。SOC 2 準拠を公称するが、第三者レビューでは未認証との指摘があり矛盾している^[8]。全タスクがリプレイシステムに記録される仕様は、出願前の発明情報や企業秘密を扱う知財部門にとって受容しがたい。中国・シンガポール起源でMeta債下に移行中という複雑なガバナンス構造も、日本企業の情報セキュリティポリシーとの適合性に疑問を投げかける^[9]。

また、ハルシネーション（幻覚）リスクは知財業務において致命的である。Stanford大学の研究では、Lexis+AIやWestlaw AIのような法律特化型AIツールでさだ17～33%のハルシネーション率を示しており^[10]、汎用エージェントであるManusではさらに高い可能性がある。

1.4 価格体系

Standard月額20ドル（4,000クレジット）～Extended月額200ドル（40,000クレジット）。1タスクあたり約2ドルだが、複雑なタスクは500～900クレジット消費し、事前にコストが予測できない^[11]。

2. Claude Code—知財 DX のプラットフォームになりうる

2.1 概要と特徴

Claude Code（2025年2月プレビュー、同年5月GA）は、Anthropicのターミナルベース型コーディングエージェントで、100万トークンのコンテキストウィンドウ（Claude Opus 4.6、2026年2月リリース）を活かし、長大な特許明細書を一括処理できる^[12]。単なるコード補完ツールではなく、プロジェクト全体を理解した上でマルチファイル編集、Git操作、シェルコマンド実行、サブエージェント並列処理を自律的に行う^[13]。

2.2 知財部門にとっての核心的価値

知財部門にとっての核心的価値は、カスタム知財ツールの迅速構築にある。NECが自社RAGベースのIP DXプラットフォームを構築して先行技術調査時間93.5%削減を達成した事例は、カスタム開発の威力を実証している^[2]。Claude Codeを使えば、同様のアプローチを外部開発チームなしで実現できる可能性がある。

具体的な構築可能ツールとして、特許庁のAPI（ip-data.jpo.go.jp、2022年1月より試行提供）^[14]やUSPTO Open Data Portal、EPO OPSとの連携により、Pythonスクリプトで特許データの自動取得・解析パイプラインを構築できる。Streamlit/Dashによるインタラクティブな特許マップダッシュボード、pandas/matplotlibによるIPランドスケープの可視化、XMLパーサーによる特許公報のバッチ処理などが実現可能である。

2.3 技術的ハードルとコスト

技術的ハードルは想像より低い。Anthropic社内では、法務担当者がPython経験なしで電話応対システムを構築した事例がある^[15]。日本語ドキュメント（code.claude.com/docs/ja/）も充実し、2026年6月10日には東京で「Code with Claude」開発者イベントが開催予定である^[16]。ただし、ツールの長期保守、エッジケース対応、セキュリティレビューには基本的なプログラミング理解が不可欠であり、IT部門や外部エンジニアとの協働体制が現実的だ。

コスト面では、Proプラン月額20ドルで開発開始可能という圧倒的な低コストが魅力だ。API利用のBatch処理では50%割引、プロンプトキャッシングで最大90%削減が可能で、大量の特許文書処理に適している^[17]。エンタープライズプランではHIPAA対応、US国内のみの推論処理オプションも選択でき、AWS BedrockやGoogle Vertex AI経由のデプロイによりデータレジデンシー

の制御も可能である^[18]。

3. 知財特化型 AI ツール—即戦力だが分散リスクがある

3.1 国産ツール群

国産ツール群は、日本語ネイティブ対応と JPO データ直接連携という決定的優位性を持つ。

Patentfield AIR（京都）は、プロフェッショナル検索・データ可視化・AI セマンティック検索・AI 分類予測の 4 機能統合に加え、GPT/Gemini/Claude を活用した最大 1 万件の一括生成 AI 分析が可能で、月額 2 万円～と参入障壁が低い^[19]。

AI Samurai（東京、2025 年 6 月にトヨタテクニカルディベロップメント子会社化）は、世界唯一の「特許性判定シミュレーション」（S/A/B/C/D ランク付け）と、2025 年 6 月リリースの拥絶理由対応 AI が特徴的だ^[20]。

Genzo AI（京都、2026 年 4 月 1 日設立、島津製作所 90% 出資）は、実際の企業知財部門（島津製作所）の暗黙知をプロンプトに体系化した点が画期的で、外注費年間 8,000 万円削減、発明提案書作業 50% 減、競合特許スクリーニング 90% 減という実績を持つ^[21]。4 月 15 日のサービス開始後、7 月に明細書作成、9 月に IP 契約レビューへ段階拡張予定である^[22]。

Summaria（東京）は、特許文書の「読解支援」に特化した独自ポジションを占め、FTO スクリーニングでの関連度スコアリングとクレームツリー自動生成が高評価で、ユーザー満足度 83% 以上を達成している^[23]。**Tokkyo.Ai**（東京）は、2025 年 6 月に日本初の特許支援 AI エージェントをリリースし、12 月に Deep Research 機能を追加。月額 1.5 万円～という低価格で「知財の民主化」を推進している^[24]。

3.2 海外ツール群

PatSnap Eureka は 35 億以上のデータポイントに基づくドメイン特化 LLM で汎用 LLM より 60% 以上高い精度を主張し、日本語 UI・日本代理店経由のサポートを提供する^[25]。**Questel Orbit Intelligence** は 1 億件超の特許データと Sophia AI アシスタントを擁し、ブリヂストンなど日本大企業での導入実績がある^[26]。**LexisNexis PatentSight+** の Patent Asset Index (PAI) は特許価値の定量評価で業界標準となり、2025 年 9 月発表の Protégé AI アシスタントは自然言語での IP 戦略分析を実現した^[27]。**Clarivate Derwent** は 850 名以上の専門家が作成した 6,700 万件の発明要約 (DWPI) という他に類のない高品質データ資産を持つ^[28]。

3.3 主要ツール機能比較表

ツール	特許調査	明細書	FTO	ランドスケープ	日本語	月額目安
Patentfield AIR	◎	△	○	◎	ネイティブ	2万～10万円
AI Samurai	◎	◎	○	△	ネイティブ	要問合せ
Genzo AI	○	◎	◎	△	ネイティブ	8万～125万円
Summaria	△	△	◎	△	ネイティブ	無料/有料移行中
Tokkyo.Ai	○	○	△	△	ネイティブ	1.5万円～
PatSnap Eureka	◎	○	○	◎	対応	エンタープライズ
Questel Orbit	◎	○	◎	◎	一部	エンタープライズ
PatentSight+	○	×	○	◎	一部	エンタープライズ
Derwent	◎	×	◎	◎	一部	エンタープライズ

4. 7つの比較軸で見る各アプローチの実力差

即効性では知財特化型ツールが圧倒的に優位である。SaaS型のため導入当日から使用開始可能で、Patentfield AIR や Tokkyo.Ai は無料トライアルも提供する。Manus も即日利用可能だが知財特化の設定が必要。Claude Code はツール構築に数日～数週間を要するため即効性は最も低い。

導入の容易さでは、知財特化型ツールと Manus がブラウザベースで技術知識不要。Claude Code はターミナル操作が基本だが、デスクトップアプリ（Claude Cowork、2026年4月GA）やVS Code 拡張でハードルは下がりつつある^[18]。

コストパフォーマンスは用途による。少量の特許調査なら Tokkyo.Ai（月額1.5万円）や Manus Standard（月額20ドル）が最安。大規模なカスタム分析を継続的に行うなら Claude Code（Pro 月額20ドル+API従量課金）のROIが高くなる。知財特化型エンタープライズツールは年間数百万円規模だが、大規模部門での業務削減効果を考慮すれば投資対効果は高い。

カスタマイズ性・拡張性では Claude Code が突出している。自社ワークフローに完全適合したツールを構築でき、J-PlatPat API、USPTO API、EPO OPS との連携も自在だ。Manus はスキル（再利用可能ワークフロー）で一定のカスタマイズが可能。知財特化型ツールはAPI提供がある場合を除き、ベンダーの機能ロードマップに依存する。

セキュリティ・機密性は、知財業務において最重要の判断基準である。Claude Code が最も柔軟なセキュリティオプションを提供し、エンタープライズプラン、AWS Bedrock/Vertex AI 経由のデプロイ、APIデータの学習不使用ポリシーを備える。国産知財特化型ツールでは、Genzo AI が国内AWSサーバーにデータ保存しユーザー制御の削除を保証^[22]、Tokkyo.Ai がプライベート検索環境を提供する^[24]。Manus は前述のセキュリティ懸念から、機密性の高い知財情報の取扱いには現時点で推奨できない^[8]。

日本の知財実務との親和性では、国産知財特化型ツールが最高評価。特許庁データとの直接連携、特許日本語の処理品質、日本の出願実務（拒絶理由対応、審判など）への対応で他を圧倒する。Claude Code は日本語ドキュメント・コミュニティが充実するが、特許日本語の専門性への対応はユーザーのプロンプト設計力に依存する。

対応業務範囲では、Claude Code が理論上最も広い（プログラミングで任意の機能を構築可能）が、実現には開発工数を要する。知財特化型ツールは対応業務が明確で、複数ツールの組合せで広範囲をカバーできる。Manus は知財以外の業務を含む広範な汎用タスクに対応するが、知財コア業

務の深さは不足する。

5. 部門規模別の最適組み合わせ戦略

5.1 小規模部門（1～5名）：「即効性優先」パターン

リソースが限られるため、SaaS型知財特化ツールの即時導入が最優先。Tokkyo.Ai（月額1.5万円～）またはPatentfield AIR Basic（月額約1.5万円～）で特許調査を効率化し、Summariaで特許文書読解を加速する。汎用AIとしてClaude（Pro月額20ドル）を特許翻訳・要約に活用。カスタム開発は現実的ではなく、Manusは技術動向の概要調査に限定利用する。年間予算目安：50万～150万円。

5.2 中規模部門（5～20名）：「ハイブリッド」パターン

知財特化ツールの本格導入と、Claude Codeによる段階的なカスタム開発を並行する。AI SamuraiまたはPatentfield AIR Corpで調査・出願支援の基盤を構築し、Genzo AI（年100万～1,500万円）で明細書作成・拒絶理由対応を効率化する^[22]。同時に、IT部門と連携してClaude Code（Team Premium月額100～125ドル/seat）で自社固有のIPランドスケープ分析ダッシュボードや特許データパイプラインを構築する^[17]。IPポートフォリオの戦略分析にはPatentSight+のPAIメトリクスが有効だ^[27]。年間予算目安：300万～1,500万円。

5.3 大規模部門（20名以上）：「プラットフォーム構築」パターン

NEC方式に倣い、Claude Codeをコア開発ツールとして自社IP DXプラットフォームを構築するのが最もROIが高い^[2]。J-PlatPat API、USPTO API、社内発明管理システムと連携したRAGベースの統合検索・分析基盤を開発する。並行して、Derwent（高品質データ源）^[28]、Questel Orbit（グローバル網羅性）^[26]、PatSnap Eureka（R&D連携）^[25]を用途別に契約し、API経由で自社プラットフォームに統合する。Genzo AIの明細書作成・翻訳機能を補完的に活用。セキュリティはAWS Bedrock経由のClaude APIデプロイで確保する。年間予算目安：2,000万～5,000万円以上（開発人件費含む）。

6. 2026年以降を見据えた戦略的判断

3つのアプローチは競合関係にあるというより、異なるレイヤーを担う補完関係にある。知財特化型ツールは「即座に使える専門機能」、Claude Codeは「自社に最適化された知財基盤の構築力」、Manusは「周辺業務の汎用自動化」をそれぞれ提供する。

特許庁は2029年1月にJ-PlatPatの大幅刷新（検索結果上限3,000→30,000件、特許マップ可視化、AI検索支援）を予定しており^[29]、AI活用環境は急速に整備されつつある。ただし、J-PlatPat APIの新規登録は2024年8月以降停止中であり^[14]、API活用を計画する部門は再開時期を注視すべきだ。

最も重要な判断基準はセキュリティである。出願前発明情報の漏洩は新規性喪失に直結し、取り返しがつかない^[30]。いずれのアプローチを採用するにせよ、①AIへの入力データの範囲を明文化した社内ガイドライン策定、②データ学習オプトアウトの確認、③機密レベル別のツール使い分けポリシー整備が前提条件となる。AIが知財業務の「効率化」から「価値創出」へと進化するこの転換期において、ツール選定は技術的判断であると同時に、知財部門の将来像を規定する経営判断でもある。

参考文献

- [1] 特許庁「特許庁における人工知能（AI）技術の活用に向けたアクション・プランの令和7年度改定版について」 (https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/ai_action_plan/ai_action_plan-fy2025.html)
- [2] NEC「知財業務全般を生成AIで効率化 NECが進める知財DX」 (<https://jpn.nec.com/rd/technologies/202510/index.html>)
- [3] FinancialContent, “Meta Anchors the ‘Execution Layer’ with \$2 Billion Acquisition of Autonomous Agent Powerhouse Manus,” January 2026.
- [4] Wikipedia, “Manus (AI agent),” ([https://en.wikipedia.org/wiki/Manus_\(AI_agent\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Manus_(AI_agent)))
- [5] arXiv, “From Mind to Machine: The Rise of Manus AI as a Fully Autonomous Digital Agent,” 2505.02024v2.
- [6] 野崎篤志「AI エージェントの Manus を使って J-PlatPat で特許検索をしてみると その2」 note (<https://note.com/anozaki/n/n2f7150db8e39>)
- [7] SearchAtlas, “Manus AI Agent Review: Price, Features, Pros & Cons,” (<https://searchatlas.com/blog/manus-ai-agent-review/>)
- [8] DeepWiki, “Privacy and Security Considerations,” [hodorwang/manus-guide](https://deepwiki.com/hodorwang/manus-guide) (<https://deepwiki.com/hodorwang/manus-guide/7.2-privacy-and-security-considerations>)
- [9] FAIR Institute, “Manus AI Isn’t the Risk, How You Use It Is: Navigate Autonomous AI with FAIR,” (<https://www.fairinstitute.org/blog/manus-ai-risk-navigate-autonomous-ai-with-fair>)
- [10] Magesh et al., “Hallucination-Free? Assessing the Reliability of Leading AI Legal Research Tools,” *Journal of Empirical Legal Studies*, 2025. (<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/jels.12413>)
- [11] NoCode MBA, “Manus AI Pricing 2026: Plans, Credits & Costs Compared,” (<https://www.nocode.mba/articles/manus-ai-pricing>) ; Eesel AI, “Manus AI pricing 2025: A deep dive into its controversial credit system.”
- [12] Anthropic, “Claude Code overview,” *Claude Code Docs* (<https://code.claude.com/docs/en/overview>) ; Build Fast with AI, “Claude AI 2026: Models, Features, Desktop & More.”
- [13] DevelopersIO, “Claude/Claude Code Series for Non-Engineers: I Set Up an Environment to Run Claude Code,” (<https://dev.classmethod.jp/en/articles/claude-business-use1/>)
- [14] 特許庁「APIを利用した特許情報の試行提供」 (<https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/data/api-provision.html>)
- [15] Libecity, “【非エンジニアでも開発できる時代】 Claude Code 完全ガイド” (<https://library.libecity.com/articles/01KF4VSRH362TN59A64085B6C3>)
- [16] Anthropic, “Code with Claude — Anthropic’s Developer Conference,” (<https://www.anthropic.com/events/code-with-claude-2025>)
- [17] SSD Nodes, “Claude Code Pricing in 2026: Every Plan Explained,” (<https://www.ssdnodes.com/blog/claude-code-pricing-in-2026-every-plan-explained-pro-max-api-teams/>) ; Anthropic, “Pricing,” *Claude API Docs* (<https://platform.claude.com/docs/en/about-claude/pricing>)

- [18] Build Fast with AI, “Claude AI 2026: Models, Features, Desktop & More,”
(<https://www.buildfastwithai.com/blogs/claude-ai-complete-guide-2026>) ; Releasebot, “Anthropic Release Notes - April 2026 Latest Updates.”
- [19] Patentfield 「生成 AI 調査・分析オプション Patentfield AIR」 (<https://en.patentfield.com/news/256>) ; PR TIMES 「Patentfield 料金プランをリニューアル」
- [20] 日本経済新聞 「特許文書作成の AI Samurai、トヨタ系の完全子会社に」 2025 年 6 月; 日本経済新聞 「トヨタ系の AI サムライ 特許文書の補正案、AI が数分で作成」 2025 年 6 月.
- [21] 島津製作所 「知財業務自動化 SaaS 提供の子会社 Genzo AI を設立」
(<https://www.shimadzu.co.jp/news/2026/acmnk57uqb3579ay.html>)
- [22] 電波新聞デジタル 「島津製作所、知財業務を AI で自動化 4 月設立の新会社でプラットフォーム外販」
(<https://dempa-digital.com/article/711708>) ; IP エージェント 「Genzo AI を共同で設立と製品説明会のご案内」
- [23] PR TIMES 「特許読解 AI アシスタント『サマリア』が第 37 回中小企業優秀新技術・新製品賞ソフトウェア部門優良賞を受賞」 ; サマリアを用いた侵害予防調査のスクリーニング (note.com/tsunobuchi)
- [24] Tokkyo.Ai 「日本初、AI エージェントを搭載した特許支援プラットフォーム『Tokkyo.Ai』提供開始」
(<https://www.tokkyo.ai/pvt/notice/mytokkyo/>) ; リーガルテック 「Tokkyo.Ai プライベート特許検索」
(<https://www.aos.com/tokkyo/>)
- [25] PatSnap Eureka (CKS 代理店) 「R&D 特化型特許検索ツール」
(<https://www.cks.co.jp/home/Products/PatSnapEureka.html>)
- [26] Questel, “Orbit Intelligence - Patent Analytics & Search Software,” (<https://www.questel.com/patent/ip-intelligence-software/orbit-intelligence/>)
- [27] IPWatchdog, “LexisNexis Announces Protégé™ AI Assistant in PatentSight+™ to Accelerate Strategic IP Decision Making,” 2025. (<https://ipwatchdog.com/press/lexisnexis-announces-protege-ai-assistant-patentsight-accelerate-strategic-ip-decision-making/>)
- [28] Clarivate, “Launches Derwent Patent Monitor - AI Powered Tool,” (<https://clarivate.com/news/clarivate-launches-derwent-patent-monitor-to-enable-fast-and-accurate-decision-making-with-ai/>) ; Spellbook, “Best AI Patent Management Tools for Law Firms and IP Lawyers in 2026.”
- [29] INPIT 「J-PlatPat 刷新に向けた検討状況について (令和 7 年 6 月 30 日更新版)」
(https://www.inpit.go.jp/j_platpat_info/renewal_20250630.html)
- [30] エムニ 「知財×AI | 業務効率化から法的リスク対策まで解説」
(<https://media.emuniinc.jp/2025/06/27/intellectual-property-ai/>) ; NTT ドコモビジネス 「AI セキュリティとは? AI 活用によるリスクや企業ができる対策を解説」

免責事項

本資料は 2026 年 4 月時点の公開情報に基づき作成しており、各ツールの機能・価格は変更される可能性があります。導入にあた

っては各ベンダーに最新情報をご確認ください。